

# 博士論文（要約）

論文題目：韓国における大卒ホワイトカラーの  
起業行動

－ IMF危機以降の自営業層の変化 －

氏 名：李 莎梨

<目次>

第1章 序論	1
1-1. 研究の目的	1
1-2. 先行研究の検討	2
1-2-1. 階層研究	2
1-2-2. 起業研究	3
1-3. 課題の設定	5
1-4. 理論的背景と分析の枠組み	7
1-4-1. 期待効用論と非金銭的利益論	7
1-4-2. 人的資本論とソーシャルキャピタル論	8
1-4-3. 交換理論における「互酬的交換」と「互惠的交換」	9
1-5. 本論文の構成	11
第2章 韓国の労働市場構造	14
2-1. 雇用の流動化	14
2-1-1. 雇用形態別雇用動向	14
2-1-2. 年齢別雇用動向	17
2-2. 二重労働市場の深化	19
2-2-1. 企業規模別賃金構造	19
2-2-2. 学歴・職業別賃金構造	21
2-3. 労働市場の流動性	24
2-3-1. 職業移動の諸相	24
① 離職・入職率の変化	24
② 移動主体の変化	26
③ 離職と賃金の関係性	26
2-3-2. 内部化の度合い	28
① 勤続年数の変化	28
② 年齢と賃金の関係性	28
2-4. 小括	32
第3章 韓国の自営業層の特質	34
3-1. 自営業者比率の変化	34
3-2. 自営業層の内部構成	36
3-2-1. 自営業層の形成過程	36
3-2-2. 自営業層の属性変化と経済的地位	37
3-3. 商業に対する評価	40

3-3-1.	家業概念	41
3-3-2.	職業威信	41
3-3-3.	起業と経営に関する意識・行動	43
①	起業意識	43
②	起業動機	44
③	資金調達	45
④	事業の継続性	46
3-4.	小括	47
第4章	韓国企業の人材管理・形成方式	48
4-1.	韓国企業の経営システム	48
4-1-1.	オーナーによる絶対的支配	49
4-1-2.	俸給経営者の形成	50
4-2.	韓国企業における人事管理制度の変遷	50
4-2-1.	1960年代から1990年代前半までの制度導入および定着期	51
①	時代的背景	51
②	採用制度	51
③	昇進制度	52
4-2-2.	1990年代後半から2000年代前半までの変革期	53
①	時代的背景	53
②	採用制度	53
③	昇進制度	56
4-3.	韓国企業における人材形成の方式	59
4-3-1.	教育訓練費の推移	59
4-3-2.	1960年代から1990年代前半までの人材形成	60
①	教育体系の内容と方式	60
②	訓練成果の評価	62
4-3-3.	1990年代後半から2000年代までの人材形成	63
①	教育体系の内容と方式	63
②	訓練成果の評価	66
4-3-4.	人の配置と仕事内容	66
4-4.	小括	68
第5章	ホワイトカラー職出身者の起業動機	70
5-1.	インタビュー어의属性	70
5-2.	「会社」と「店舗」：2つの起業類型	70
5-3.	退職の経緯	73

5-3-1.	リストラによる強制された退職	73
5-3-2.	雇用環境の変化による自発的退職	74
①	組織コミットメントの低下	74
②	昇進体系に対する二面的な態度	75
③	リストラ「する」立場の苦悩	77
④	仕事内容に対する満足感の欠如	78
⑤	分社制度の活用	79
⑥	子女の教育問題	79
5-4.	起業の動機	81
5-4-1.	中小企業への転職の可否	81
5-4-2.	同業種部門での起業	83
5-4-3.	異業種部門での起業(飲食業以外)	86
5-4-4.	異業種部門での起業(飲食業)	88
①	生計の維持	88
②	飲食店経営の願望	89
③	金銭的獲得欲求	90
④	その他個人的事情	91
5-5.	小括	93
第6章	ホワイトカラー職出身者による「会社」経営	95
6-1.	「会社」経営の概要	95
6-1-1.	起業までのプロセス	95
①	起業過程の実際	95
②	起業過程に関する補足説明	96
③	起業類型の多様性	98
6-1-2.	経営の規模と持続性	99
①	規模	100
②	継続性	100
6-1-3.	従業員のリクルート	101
6-2.	起業・経営と協力者：起業メンバー、投資家、家族、学縁	102
6-2-1.	起業メンバー	102
①	オーナー経営の模倣	102
②	共同経営	103
③	血縁者の登用	104
6-2-2.	資金調達と無償の便宜	105
①	金融機関からの資金調達	105
②	家族・友人からの投資	106

③	その他の便宜提供	107
④	経営難と配偶者の貢献	108
6-2-3.	ソーシャルキャピタルとしての学縁	109
①	名門校の人脈	109
②	学縁の管理・活用	111
③	名門校の学縁の功罪	112
6-3.	取引先の開拓・管理	112
6-3-1.	大企業との取引	112
①	下請の否定	112
②	大企業への直接営業	115
6-3-2.	同郷者のネットワークの活用	116
6-3-3.	寄与を通じた関係作り	118
6-4.	人脈の構築と管理	119
6-4-1.	モイムを通じた人脈の構築	119
①	仕事がらみのモイムへの参加	119
②	モイムの組織的特性	120
6-4-2.	仕事がらみのモイムを通じた人脈の構築	120
6-5.	ソーシャルキャピタルとしての人脈の活用と経営スタイル	123
6-5-1.	起業・経営に活用されるソーシャルキャピタルとしての人間関係	123
①	出自に由来する人間関係	123
②	個人の選択に由来する人間関係	125
6-5-2.	経営スタイル	129
①	投機的経営	130
②	持続志向的経営	132
6-6.	小括：アップーミドルの経営姿勢とステータス志向	135
第7章	ホワイトカラー職出身者による「店舗」経営	140
7-1.	飲食業と飲食店経営の実態	140
7-1-1.	飲食業界の現状：外食志向，生存率の低さ，飽和状態	140
7-1-2.	従来型の飲食店経営とアップーミドルの「店舗」経営	141
7-2.	ホワイトカラー職出身者による飲食店経営の概要	142
7-2-1.	開業までのプロセス	142
①	経営形態の決定と資金調達	142
②	場所の選定と内装	144
③	メニューと価格の決定	145
④	材料の調達	145
⑤	開業宣伝	145

7-2-2.	経営の規模と持続性.....	146
①	経営の規模.....	146
②	事業の持続性.....	147
7-2-3.	厨房に対する経営者の意識.....	148
7-3.	起業・経営と協力者：投資家，家族，学縁.....	149
7-3-1.	家族からの支援.....	149
7-3-2.	知人・友人からの投資.....	150
7-3-3.	投資家と月給社長.....	151
7-3-4.	独自調達.....	151
7-4.	顧客の獲得と維持.....	152
7-4-1.	顧客の獲得における人脈活用.....	152
7-4-2.	一見客を確保するための努力.....	153
7-5.	ソーシャルキャピタルの活用と経営スタイル.....	155
7-5-1.	ソーシャルキャピタル活用術の諸相.....	155
7-5-2.	経営スタイル.....	159
①	生計維持的経営.....	159
②	拡大志向的経営.....	159
7-6.	小括：「店舗」経営におけるステータスゲーム.....	161
第8章	結論.....	166
8-1.	論点と考察.....	166
8-1-1.	韓国の労働市場構造.....	166
8-1-2.	韓国の自営業層の特質.....	167
8-1-3.	韓国企業の人材管理・形成方式.....	167
8-1-4.	ホワイトカラー職出身者の起業動機.....	168
8-1-5.	ホワイトカラー職出身者による「会社」経営.....	169
8-1-6.	ホワイトカラー職出身者による「店舗」経営.....	170
8-2.	諸問題の検討.....	171
8-2-1.	第1の問い(第3章・第5章).....	172
8-2-2.	第2の問い(第6章・第7章).....	172
①	ホワイトカラー職出身者が活用した社会的資源の種類.....	173
②	社会的資源に対するホワイトカラー職出身者の活用パターン.....	173
8-3.	本論文の限界と今後の課題.....	175
参考文献	.....	177

<本文>

5年以内に出版予定である。

<参考文献一覧>

<日本語文献>

- 阿部正浩(2005)『日本経済のリストラと労働市場』東洋経済新報社
- 安倍誠(2004)「韓国財閥の持続可能性：継承問題と通貨危機後の事業再編を中心に」(星野妙子『ファミリービジネスの経営と革新』)アジア経済研究所
- 安倍誠(2006)「韓国財閥における家族経営と俸給経営者層：三星・SGグループの事例から」(星野妙子・末廣昭『ファミリービジネスのトップマネジメント:アジアとラテンアメリカにおける企業経営』岩波書店)
- 有田伸(2002)「韓国における中間層の生成過程と社会意識」(服部民夫・船津鶴代・鳥居高『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所)
- 有田伸(2005)「韓国における職業評定の分析」(園田茂人『東アジアの階層比較』中央大学出版部)
- 有田伸(2006)『韓国の教育と社会階層：「学歴社会」への実証的アプローチ』東京大学出版会
- 有田伸(2007)「職業移動を通じてみる韓国の都市自営業層：経済危機後の変化の考察を中心に」(奥田聡『経済危機後の韓国：成熟期に向けての社会・経済的課題』アジア経済研究所)
- 有田伸(2009)「比較を通じてみる東アジアの社会階層構造：職業がもたらす報酬格差と社会的不平等」『社会学評論』59-4
- 有田伸(2016)『就業機会と報酬格差の社会学：非正規雇用・社会階層の日韓比較』東京大学出版会
- 安春植(1982)『終身雇用制の日韓比較』論創社
- 伊藤亜人(1977a)「契システムにみられるchinhan-saiの分析：韓国全羅南道珍島における村落構造の一考察」『民族学研究』41-4
- 伊藤亜人(1977b)「韓国村落社会における契：全羅南道珍島農村の事例」『東洋文化研究所紀要』東京大学東洋文化研究所 71
- 伊藤亜人/船曳建夫/関本照夫(1987)『現代の社会人類学1親族と社会の構造』東京大学出版会
- 伊藤亜人(2001)「産業化の制約要因としての儒教：発展段階論批判」(松本厚治/服部民夫『韓国経済の解剖：先進国移行論は正しかったのか』文眞堂)
- 伊藤亜人(2002)「韓国における任意参加の組織：地方出身者の結社を中心として」(韓敬九/伊藤亜人『韓日社会組織の比較』慶應義塾大学出版会)

伊藤亜人/韓敬九(2007)『中心と周縁からみた日韓社会の諸相』慶應義塾大学出版会

稲垣京輔(2003)『イタリアの起業家ネットワーク：産業集積プロセスとしてのスピノフの連鎖』白桃書房

稲上毅(1989)『転換期の労働世界』有信堂高文社

稲上毅/八幡成美(1999)『中小企業の競争力基盤と人的資源』文眞堂

稲上毅(2003)『企業グループ経営と出向転籍慣行』東京大学出版会

井上善海(2009)『中小企業の戦略：戦略優位の中小企業経営論』同友館

今田幸子/平田周一(1995)『ホワイトカラーの昇進構造』日本労働研究機構

氏原正治郎/高梨昌(1971)『日本労働市場分析(上・下)』東京大学出版会

奥田聡(2007)『経済危機後の韓国：成熟期に向けての社会・経済的課題』アジア経済研究所

尾崎裕子/山谷真名(2008)「婚姻意識と性役割意識」(篠塚英子/永瀬伸子『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社)

小野旭(1989)『日本的雇用慣行と労働市場』東洋経済新報社

金光淳(2003)『社会ネットワーク分析の基礎』勁草書房

金相美(2011)『韓国における情報化と縁故主義の変容』ミネルヴァ書房

清成忠男(1990)『中小企業読本(第2版)』東洋経済新報社

権五景/高橋哲郎(2009)『韓国中小製造企業の現状：首都圏企業とヒアリングを中心として』環日本海経済研究所

倉持和雄(1994)『現代韓国農業構造の変動』御茶の水書房

小池和男(1991)『仕事の経済学』東洋経済新報社

小池和男(2002)『ホワイトカラーの人材形成』東洋経済新報社

佐藤静香(2008)「韓国における大卒ホワイトカラーのキャリア管理と早期退職：財閥系列企業S化学の事例」『大原社会問題研究所雑誌』596大原社会問題研究所

佐藤嘉倫, 平松闊 (2005)『ネットワーク・ダイナミクス』勁草書房

佐野陽子(1989)『企業内労働市場』有斐閣

篠塚英子(2008)「共稼ぎと専業主婦世帯別にみた男女の就業と所得」(篠塚英子・永瀬伸子『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社)

篠塚英子/永瀬伸子(2008)『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社

嶋陸奥彦(2006)『韓国道すがら：人類学フィールドノート30年』草風館

嶋陸奥彦(2007)「アパート団地開発地区の露天商街」(伊藤亜人・韓敬九『中心と周縁からみた日韓社会の諸相』慶應義塾大学出版会)

隅谷三喜男(1977)「韓国企業の労務問題」『韓国の企業経営』アジア経済研究所

園田茂人(2005)『東アジアの階層比較』中央大学出版部

高橋哲郎(2006)「韓国のベンチャー支援政策とベンチャー企業の発展動」(平川均/劉進慶/崔龍浩『東アジアの発展と中小企業：グローバル化のなかの韓国・台湾』学術出版会)

橘木俊詔/安田武彦(2006)『企業の一生の経済学：中小企業のライフサイクルと日本経済



- の活性化』ナカニシヤ出版
- 谷岡一郎/仁田道夫/岩井紀子(2008)『日本人の意識と行動：日本版総合的社会調査JGSS  
による分析』東京大学出版会
- 鄭賢淑(2002)『日本の自営業層：階層的独自性の形成と変容』東京大学出版会
- 塚田広人(2005)『雇用構造の変化と政労使の課題：日本・韓国・中国』成文堂
- 富永健一/宮本健一(1998)『モビリティ社会への展望：変動する日本型雇用システム』慶  
應義塾大学出版会
- 富永健一(2006)『理論社会学の可能性：客観主義から主観主義まで』新曜社
- 朴一(2004)『変貌する韓国経済』世界思想社
- 朴昌明(2004)『韓国の企業社会と労使関係：労使関係におけるデュアリズムの深化』ミネ  
ルヴァ書房
- 間宏(1971)『日本的経営：集団主義の功罪』日本経済新聞社
- 服部民夫(1988)『韓国の経営発展』文眞堂
- 服部民夫(1992)『韓国：ネットワークと政治文化』東京大学出版会
- 服部民夫/佐藤幸人(1996)『韓国・台湾の発展メカニズム』アジア経済研究所
- 服部民夫/船津鶴代/鳥居高(2002)『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所
- 服部民夫(2003)「IMF危機以降の韓国における労働市場の変化」『えーじえつく・れぼー  
と』Vol.33
- 服部民夫(2005)『開発の経済社会学』文眞堂
- 服部民夫(2007)『東アジア経済の発展と日本：組立型工業化と貿易関係』東京大学出版会
- 濱口恵俊(1996)『日本型信頼社会の復権』東洋経済新報社
- 濱口恵俊(2003)『「間の文化」と「独の文化」』知泉書館
- 原田信行(2002)「潜在的開業者の実証分析」『日本経済研究』44日本経済研究センター
- 韓敬九/伊藤亜人(2002)『韓日社会組織の比較』慶應義塾大学出版会
- 樋口美雄(2001)『雇用と失業の経済学』日本経済新報社
- 平川均/劉進慶/崔龍浩(2006)『東アジアの発展と中小企業：グローバル化のなかの韓国・  
台湾』学術出版会
- 法政大学大原社会問題研究所編(1998)『現代の韓国労使関係』御茶の水書房
- 本庄裕司(2004)「新規参入と退出の計量分析」『日本経済研究』44日本経済研究センタ  
ー
- 本庄裕司(2006)「起業家の人的資本と資金調達」(橋木俊詔/安田武彦『企業の一生の経済  
学：中小企業のライフサイクルと日本経済の活性化』)ナカニシヤ出版
- 本田洋(2009)「威信の存立と富：民俗誌からの展望」『韓国朝鮮の文化と社会』8韓国朝  
鮮文化研究会
- 増田幸一(2009)「中小企業の戦略と事業承継」(井上善海『中小企業の戦略：戦略優位の  
中小企業経営論』同友館)
- 松繁寿和(2002)「起業後の成長を決定する要因」(三谷直紀/脇坂明『マイクロビジネスの

- 経済分析』東京大学出版会)
- 松本厚治/服部民夫(2001)『韓国経済の解剖：先進国移行論は正しかったのか』文眞堂
- 三谷直紀(2002)「高齢者就業と自営業」(三谷直紀/脇坂明『マイクロビジネスの経済分析』東京大学出版会)
- 三谷直紀/脇坂明(2002)『マイクロビジネスの経済分析』東京大学出版会
- 宮川公男・大守隆(2004)『ソーシャル・キャピタル：現代経済社会のガバナンスの基礎』東洋経済新報社
- 明泰淑(1999)『韓国の労務管理と女性労働』文眞堂
- 村松久良光(1983)『日本の労働市場分析』白桃書房
- 守島基博(2008)「人材育成と企業競争力」『やさしい経済学：経営学のフロンティア』日本経済新聞社
- 八代尚弘(1995)『大企業ホワイトカラーのキャリア：移動と昇進の実証分析』日本労働研究機構
- 八代尚弘(1997)『日本的雇用慣行の経済学：労働市場の流動化と日本経済』日本経済新聞社
- 安岡重明(1998)『財閥経営の歴史的研究：所有と経営の国際比較』岩波書店
- 柳町功(2001)「韓国財閥におけるオーナー支配の執拗な持続」(松本厚治/服部民夫『韓国経済の解剖：先進国移行論は正しかったのか』文眞堂)
- 山岸俊男(1998)『信頼の構造：心と社会の進化ゲーム』東京大学出版会
- 横田伸子(2001)『1970年代以後韓国労働市場の構造と変化：単一労働市場から分断労働市場へ』ソウル大学校大学院経済学科博士論文(韓国語)
- 横田伸子(2003)「韓国における労働市場の柔軟化と非正規労働者の規模の拡大」『大原社会問題研究所雑誌』535 大原社会問題研究所
- 労務行政研究所(2003)『労政時報』3599
- 労務行政研究所(2005)『労政時報』3662
- 李莎梨(2009)「韓国における中壮年ホワイトカラーの起業行動」『アジア経済』50-5アジア経済研究所
- 李莎梨(2014)「韓国の管理職出身者による「会社」経営の様相：起業に関するインタビューから (한국 관리직 출신자의“회사”경영：창업에 관한 인터뷰를 통하여)」『韓日経商論集』64 韓日経商学会
- 李莎梨(2015)「韓国の管理職出身者による「店舗」経営の様相：「会社」経営との比較から」『現代韓国朝鮮研究』15 現代韓国朝鮮学会

<韓国語文献>

- カンスンヒ[강순희] (2002)『기업 교육 훈련 투자의 현황과 과제 (企業教育訓練投資の現況と課題)』韓国労働研究院
- クァクユンジク[곽윤직] (2003)『채권총론 (債権総論)』博英社

- クヘグン[구해근] (1991) 「한국 중간계급 연구의 이론적·방법론적 문제점 (韓国中間階級研究の理論的・方法論的問題点)」(ソウル大学校社会学研究会編 『사회계층 : 이론과 실제 (社会階層 : 理論と實際)』 茶山出版社)
- クムジェホ/チョジュン모[금재호/조준모] (1998) 『이직의 원인과 행태에 관한 연구 : 기업 규모별 분석 (離職の原因と行態に関する研究)』 韓国労働研究院
- クムジェホ/チョジュン모[금재호/조준모] (2000) 「자영업의 선택에 관한 이론 및 실증 분석 (自營業の選択に関する理論および実証分析)」 『労働經濟論集』 23 pp.81-108 韓国労働經濟学会
- クムジェホ[금재호] (2002) 『기업 내부노동시장의 승진과 임금 (企業内部労働市場の昇進と賃金)』 韓国労働研究院
- クムジェホ/リュージェウ/チョンビョンユ/첸가안식[금재호/류재우/전병유/최강식] (2003) 『자영업 노동시장의 현상과 과제 (自營業労働市場の現状と課題)』 韓国労働研究院
- クムジェホ/윤미레/チョジュン모/첸가안식[금재호/윤미레/조준모/최강식] (2006) 『자영업의 실태와 정책 과제 (自營業の実態と政策課題)』 韓国労働研究院
- クムジェホ/김기승/チョドン펀/チョジュン모[금재호/김기승/조동훈/조준모] (2009) 『자영업 노동시장 연구 1 : 자영업의 변화 추이와 특성 (自營業労働市場研究 1 : 自營業の变化推移と特性)』 韓国労働研究院
- 김가안식[김강식] (1997) 「한국 기업 명예퇴직 제도의 실태 (韓国企業名誉退職制度の実態)」 『勞使關係研究』 8pp.119-148 索爾大學校勞使關係研究所
- 김기승[김기승] (2006) 『자영업 진출 결정 요인과 정책적 시사점 (自營業進出의 決定要因と政策的示唆点)』 国会予算政策处
- 김돈베/김주얼/베기슈크/김쥬온우[김동배/김주일/배규식/김정우] (2004) 『고용 유연화와 인적자원관리 과제 (雇用流動化と人的資源管理의 課題)』 韓国労働研究院
- 김비ョン조[김병조] (1985) 『구중간 계급의 형성 및 재생산에 관한 일고찰 (旧中間階級の形成および再生産に関する一考察)』 索爾大學校大学院碩士論文
- 김산쥬ン[김상준] (2004) 「부르디외, 콜만, 퍼트남의 사회적 자본 개념 비판 (ブルデュー, コールマン, パットナムのソーシャルキャピタル概念の批判)」 『韓國社会学』 38-6pp.63-95 韓國社会学学会
- 김산호[김상호] (2010) 『레스토랑 경영 실무 (レストラン經營實務)』 大旺社
- 김손스[김성수] (2001) 「삼성전자의 인재관리 (三星電子の人材管理)」 『經營事例研究』 35-1pp.1-18 索爾大學校經營研究所
- 김손쥬ン/손쥬ehan[김성중/성제환] (2005) 『한국의 고용정책 (韓國の雇用政策)』 韓国労働研究院
- 김쥬온미/한쥬ン[김영미/한준] (2008) 「내부 노동시장의 해체인가 축소인가 : 기업 규모별 임금격차 분해를 통해 본 한국 노동시장의 구조 변동 1982~2004 (内部労働

市場の解体なのか縮小なのか：企業規模別賃金格差分解を通じた韓国労働市場の構造  
 変動(1982~2004)」 『韓国社会学』 42-7 pp.111-145 韓国社会学会  
 김용학[김용학] (1999) 「경제 위기의 충격과 신뢰 위기 : 위기 전후의 경험적 지  
 표 비교 분석 (經濟危機の衝撃と信頼の危機 : 危機前後の經驗的指標の比較分析)」  
 『社会發展研究』 5pp.125-149 延世대학교社会發展研究所  
 김용학/한기영/이각범[김용학/한기영/이각범] (2002) 「벤처기업의 지원  
 동원 네트워크 성과에 관한 연구 (ベンチャー企業の資源動員ネットワーク成果に關す  
 る研究)」 『韓国社会学』 36-4 pp.89-121 韓国社会学会  
 김용학[김용학] (2004) 『사회연결망 이론 (社会ネットワーク理論)』 博英社  
 김용학/김원배/김호기/류석춘[김용학/김원배/김호기/류석춘] ほか(200  
 8) 『동아시아의 사회적 포섭과 배제 (東アジアの社会的包摂と排除)』 延世대학교出版  
 部  
 김우영[김우영] (2000) 「취업 형태의 비교 우위와 자영업주의 결정 요인에 대한 분  
 석 (就業形態の比較優位と自營業主の決定要因に關する分析)」 『労働經濟論集』 23  
 pp.55-80 韓国労働經濟学会  
 김은미/장덕진[김은미/장덕진] (2005) 『경제위기의 사회학 : 개발 국가의  
 전환과 기업집단 연결망(經濟危機の社会学 : 開發國家の轉換と企業集團ネットワーク)』  
 서울대학교출판부  
 김재구[김재구] (1999) 『구조조정기의 기업의 인사조직 혁신 연구 (リストラ期の企  
 業の人事組織革新研究)』 韓国労働研究院  
 김주훈/차문중[김주훈/차문중] (2007) 『서비스 부문의 선진화를 위한 정  
 책 과제 (サービス部門の先進化のための政策課題)』 韓国開發研究院  
 김진모/이진화/이완우[김진모/이진화/이완우] (2005) 「한국 대기업 연수원의  
 핵심인재 교육 프로그램 내용 분석 (韓國大企業研修院の核心人材教育プログラム内容  
 分析)」 『職業教育研究』 24-3pp.211-242 韓国職業教育学会  
 김현정[김현정] (2006) 「서비스 산업 비중 증가의 원인 및 경제 성장에 미치  
 는 영향 (서비스産業比重増加の原因および經濟成長に及ぼす影響)」 『經濟分析』  
 12-4 pp.35-76 韓国銀行金融經濟研究院  
 김혜원/김성훈/최민식[김혜원/김성훈/최민식] (2008) 『직장이동의 노  
 동시장 효과 분석 (職場移動の労働市場効果分析)』 韓国労働研究院  
 남재량[남재량] (2008) 『노동시장의 동태적 특성에 관한 연구 (労働市場の動態  
 的特性に關する研究)』 韓国労働研究院  
 労働部[노동부] (2000) 『기업체 노동비용 조사보고서 (企業体労働費用調査報告書)』  
 労働部  
 노용진/김동배/김동욱[노용진/김동배/김동욱] (2002) 『기업내 인적자원 개  
 발 실태와 정책 과제 (企業内人的資源開發の実態と政策課題)』 韓国労働研究院  
 노용진/이영면/조준모/최강식[노용진/이영면/조준모/최강식]

- (2008) 『고용안정을 위한 임금체계 개편 방안 (高齢人力の雇用安定のための賃金体系改編の方案)』 韓国労働研究院
- ユソクチュン/찬미혜/찬산인/찬비온운/츠크온/츠크존올  
 [류석춘/장미혜/전상인/정병은/최우영/최종렬] (2008) 『한국의 사회자본 : 역사와 현실 (韓國の社会資本 : 歴史と現実)』 百山出版社
- 유제우[류재우] (2004) 「자영업 부문의 소득기회와 선택성 (自営業部門の所得機会と選択性)」 『경제학연구』 52-2 pp.5-32 韓国經濟学会
- 유제우/츠크호윤[류재우/최호영] (1999) 「우리나라의 자영업 부문에 관한 연구 (わが国の自営業部門に関する研究)」 『노동경제론집』 22-1 pp.109-140 韓国労働經濟学会
- 유제우/츠크호윤[류재우/최호영] (2000) 「자영업 부문을 중심으로 한 노동력의 유동 (自営業部門を中心にした労働力の流動)」 『노동경제론집』 23-1 pp.137-165 韓国労働經濟学会
- 유제우/박손준[류재우/박성준] (2002) 『기업 근속에 대한 보상과 노동이동 (企業勤続に対する補償と労働移動)』 韓国經濟研究院
- 박오스/김기태/찬비온준[박오수/김기태/전병준] (2008) 『한국 기업의 인사평가 변천사 (韓國企業の人事評価変遷史)』 서울대학교출판부
- 박우성/노용진[박우성/노용진] (2001) 『경제위기 이후 인적자원 관리 및 노사관계 변화 (經濟危機以後の人的資源管理および労使関係の変化)』 韓国労働研究院
- 박우성/유규창/박종희[박우성/유규창/박종희] (2000) 『연봉제 (年俸制)』 韓国労働研究院
- 박우성 (2002) 『역량 중심의 인적자원관리 (力量中心の人的資源管理)』 韓国労働研究院
- 엄미정/박재민/김미란/정재호[엄미정/박재민/김미란/정재호]  
 (2007) 『청년층 숙련 불일치와 직장이동 (青年層熟練不一致と職場移動)』 韓国職業労働開發院
- 박준성 (1995) 『인재육성 혁신 인사제도 : 삼성·LG그룹의 혁신 사례 (人材育成型新人事制度 : 三星・LGグループの革新事例)』 비·북스
- 박준성/김환일[박준성/김환일] (2006) 『승진·승격 관리의 이론과 실제 (昇進・昇格管理の理論と實際)』 韓国經營者總協會
- 박찬웅/한준[박찬웅/한준] (2001) 「한국 자동차 산업의 하청 연결망의 특성에 대한 연구 (韓國自動車産業の下請ネットワークの特性に関する研究)」 『韓國社会学』 35-6 pp.1-27 韓国社会学会
- 배무기/박재윤[배무기/박재윤] (1976) 『한국의 공업 노동연구 (韓國の工業労働研究)』 서울대학교經濟研究所
- 배무기 (1984) 『노동경제학 (労働經濟学)』 經文社
- 산업자원부[산업자원부] (2002) 『한국프랜차이즈 총람 : 제1권~제5권 (韓國フランチャ

- 이즈총覽 : 第1卷~第5卷』産業資源部
- ソギュンソク[서균석] (1989) 「한국 기업의 인적자원 개발에 관한 연구 : 기업내 교육훈련에 관한 실태 분석을 중심으로 (韓国企業の人的資源開発に関する研究 : 企業内教育訓練に関する実態分析を中心に)」 『人事管理研究』 13 pp.61-97 韓国人事管理学会
- ソウル大学校社会学研究会[서울대학교사회학연구회] (1991) 『사회계층 : 이론과 실제 (社会階層 : 理論と實際)』 茶山出版社
- 솔비욘스[설병수] (2001) 「해외 이민의 명암 : 호주내 한인들의 이민 동기와 실제 생활 (海外移民の明暗 : 豪州内韓人たちの移民動機と實際生活)」 『在外韓人研究』 11 pp.57-98 在外韓人学会
- 송지미/안주엽[성지미/안주엽] (2004) 「자영업과 가교 일자리 (自営業と架橋としての仕事)」 『労働經濟論集』 27-2 pp.1-27 韓国労働經濟学会
- 송일호[송일호] (2005) 「기업체 규모별 생산성 격차 및 임금격차 분석(企業体の規模別生産性格差および賃金格差の分析)」 『生産性論集』 19-1 pp.1-22 韓国生産性学会
- 송호근/김우식/이재열[송호근/김우식/이재열] (2004) 『한국사회의 연결망 연구 (韓国社会のネットワーク研究)』 ソウル大学校出版部
- 신원동[신원동] (2007) 『삼성의 인재경영 : 18년간 삼성 인사담당자가 말하는 삼성의 인재경영 비법 (三星の人材経営 : 18年間三星人事担当者が伝える三星の人材経営秘法)』 チョン림出版
- 신원철[신원철] (2004) 「기업 내부노동시장에 관한 이론적 논의 (企業内部労働市場に関する理論的論議)」 『聖公会大学論總』 19 pp.141-188 聖公会大学校出版部
- 신유근[신유근] (1984) 『한국 기업의 특성과 과제 (韓国企業の特性と課題)』 ソウル大学校出版部
- 신유근/한정화/김영준/권석균/박준성/조영호[신유근/한정화/김영준/권석균/박준성/조영호] (1995) 『한국 대기업의 경영 특성 : 5대 그룹의 주요 기업 연구 (韓国大企業の経営特性 : 5大グループの主要企業研究)』 세그이션사
- 신창호[신창호] (2003) 『서울 산업경쟁력 강화를 위한 아파트형 공장제도 개선에 관한 연구 (ソウル産業競争力強化のためのアパート型工場制度改善に関する研究)』 ソウル市政開發研究院
- 안주엽[안주엽] (2000) 「경기 변동과 일자리 탐색 기간(景気変動と仕事の探索期間)」 『労働經濟論集』 23 pp.109-132 韓国労働經濟学会
- 안주엽/송지미[안주엽/성지미] (2003) 「자영업 지속 기간의 결정 요인 (自営業持続期間の決定要因)」 『労働經濟論集』 26 pp.1-30 韓国労働經濟学会
- 안춘식/안희탁[안춘식/안희탁] (1991) 『한국 기업 승진·승급 제도에 관한 연구 (韓国企業昇進昇級制度に関する研究)』 労働經濟研究院
- 양현봉/조덕희/박종복[양현봉/조덕희/박종복] (2009) 『창업 기업의

- 형태 및 성과 분석 : 경영 성과 및 고용 창출 요인을 중심으로 (創業企業の形態および成果分析 : 経営成果および雇用創出要因を中心に)』産業研究院
- 오스본[어수봉] (1992) 『한국의 노동이동 (韓國の労働移動)』 韓國労働研究院
- 오스본[어수봉] (1995) 「우리나라의 일공합 실태와 노동이동 (韓國における仕事の相性の実態と労働移動)」 『労働經濟論集』 17-2 pp.89-124 韓國労働經濟学会
- 오윤손/박·스윤/김·조·텍[어윤선/박승영/김종택] (2008) 『외식산업 경영론 (外食産業經營論)』 大旺社
- 오므돈웁[엄동욱] (2007) 「기업 내부노동시장에서의 임금결정 : 한국 대기업 인사 데이터를 이용한 실증분석 (企業内部労働市場での賃金決定 : 韓國大企業人事データを利用した実証分析)」 『韓國經濟學報』 14-1 pp.83-126 延世大學校經濟研究所
- 오조곤[오종석] (1983) 「한국기업의 경영적 특질 (韓國企業の經營的特質)」 『經營·經濟研究』 2-1 pp.35-62 釜山大學校産業開發研究所
- 오기영[유경준] (2004) 『한국 경제구조 변화와 고용 창출 (韓國經濟構造變化と雇用創出)』 韓國開發研究院
- 오기영/찬미/베[유석준/장미혜/배영] (2002) 『사회자본과 신뢰』 延世大學校東西問題研究院
- 오기영[윤윤규] (2007) 『기업의 고용조정에 관한 연구 (企業の雇用調整に関する研究)』 韓國労働研究院
- 이비영[이병희] (2003) 『청년층 노동시장 분석 (青年層労働市場の分析)』 韓國労働研究院
- 이비영/김주[이병희/김주섭] (2005) 『교육과 노동시장 연구 (教育と労働市場研究)』 韓國労働研究院
- 이비영/호제/김·우·원/윤·김·돈[이병희/허재준/김혜원/윤윤규/김동현] (2008) 『노동시장의 구조변화와 고용변동 (労働市場の構造變化と雇用變動)』 韓國労働研究院
- 이삼백/김주[이상백/김주운] (1966) 『한국 사회계층 연구 (韓國社會階層研究)』 民潮社
- 이성[이성] (2002) 「포스코의 인재육성 제도 (ポスコの人材育成制度)」 『賃金研究』 10-4 pp.98-105 韓國經營者總協會
- 이성[이성균] (2006) 「한국 자영업자의 사회적 자본과 소득수준 (韓國自營業者のソーシャルキャピタルと所得水準)」 『韓國社會學』 40-5 pp.178-206 韓國社會學會
- 이승렬[이승렬] (2003) 「내부노동시장 (内部労働市場)」 (이·우·원[이원덕] 『한국의노동 : 1987~2002(韓國の労働 : 1987~2002)』) 韓國労働研究院
- 이원덕[이원덕] (2003) 『한국의노동 : 1987~2002 (韓國の労働 : 1987~2002)』 韓國労働研究院
- 이영민/유회연[이영민/유회연] (2008) 「조기 유학을 통해 본 교육이민의 초국가적 네트워크와 상징자본화 연구」 『都市地理學』 11 pp.75-89 韓國都市地理學會

- 이제올[이재열] (2009) 「붕괴된 신뢰, 지연된 투명성 (崩壊した信頼, 遅延した透明性)」 (チョン・진손[정진성]ほか『한국사회의 트렌드를 읽는다 (韓国社会のトレンドを読む)』) ソウル大学校出版部
- 이쥬스/치쥬테크[이중순/지정택] (1992) 「「사사」 분석을 통한 한국기업의 발전 단계별 특성에 관한 연구 (「社史」分析を通じた韓国企業の発展段階別特性に関する研究)」 『經營史學』 7 pp.83-109 韓國經營史學會
- 이혼[이홍] (2002) 「기업집단 특성과 설립자 특성 간의 관계 : 삼성과 현대 그룹 비교를 통한 증거 (企業集團特性と設立者特性間の關係 : 三星と現代グループの比較を通じた証拠)」 『人事組織研究』 10-1 pp.55-94 韓國人事組織學會
- 이무쥬르일[임철일] (2008) 「국내 대기업의 인적자원 개발을 위한 교육체계의 특성과 정책적 시사점에 관한 연구 (國內大企業の人的資源開發のための教育体系の特性と政策的示唆点に関する研究)」 『企業教育研究』 10-1 pp.139-160 韓國企業教育學會
- 찬샨스[장상수] (2001) 『한국의 사회이동 (韓國の社会移動)』 ソウル大学校出版部
- 찬쥬쥬[장지연] (2008) 『중고령자 노동시장 국제비교연구 (中高齡者労働市場國際比較研究)』 韓國労働研究院
- 찬쥬쥬호[장진호] (2009) 「유연한 노동시장, 불안한 직장 (柔軟な労働市場, 不安な職場)」 (チョン진손[정진성]ほか『한국사회의 트렌드를 읽는다 (韓国社会のトレンドを読む)』) ソウル大学校出版部
- 戰略企業컨サル테ぃング[전략경영컨설팅] (2002) 『신인사·조직개발 (新人事·組織開發)』 戰略企業컨サル테ぃング
- 쥬쥬쥬쥬[전병유] (2003) 「자영업 선택의 결정요인에 관한 연구 (自營業選擇의決定要因に関する研究)」 『労働經濟論集』 26-3 pp.149-179 韓國労働經濟學會
- 쥬쥬쥬쥬/킴헤웬/신동균[전병유/김혜원/신동균] (2006) 『노동시장의 양극화와 정책과제 (労働市場の兩極化と政策課題)』 韓國労働研究院
- 쥬쥬쥬쥬[정이환] (1992) 『제조업 내부노동시장의 변화와 노사관계 (製造業内部労働市場の變化と労使關係)』 ソウル大学校大学院社会学科博士論文
- 쥬쥬쥬쥬/쥬쥬쥬쥬[정이환/전병유] (2001) 「1990년대 한국 임금구조의 변화 : 내부노동시장은 약화되고 있는가 (1990年代韓国賃金構造の變化 : 内部労働市場は弱化しているのか)」 『經濟と社会』 52 pp.156-183 한울
- 쥬쥬쥬쥬/이제올/박킴쥬스/쥬쥬쥬쥬/남우쥬쥬/찬쥬쥬호[정진성/이재열/박경숙/정재기/남은영/장진호] (2009) 『한국사회의 트렌드를 읽는다 : 국민의식조사를 통해서 본 외환위기 10년 (韓国社会のトレンドを読む : 國民意識調査を通じてみるIMF危機10年)』 ソウル大学校出版部
- 쥬쥬쥬쥬/이쥬쥬쥬/쥬쥬가쥬쥬[정진호/이규용/최강식] (2004) 『학력간 임금 격차의 변화와 요인 분석 (學歷間賃金格差の變化と要因分析)』 韓國労働研究院
- 쥬쥬쥬쥬쥬쥬[정찬명] (1984) 「인사고과 제도 실시 상황에 관한 연구 : 한국 대기



- 업을 중심으로 (人事考課制度実施状況に関する研究：韓国大企業を中心に) 『経営論  
 総』 9 pp.335-364 東国大学校経営大学院
- チョン테인[정태인] (1997) 「한국 기업의 내부노동시장：경제사회학적 관점 (韓国企  
 業の内部労働市場：経済社会学的観点)」 『社会科学』 36-1 pp.49-83 成均館  
 大学校社会科学研究所
- チョドクヒ[조덕희] (2009) 「우리나라 창업부진 실태와 시사점 (わが国の創業不振の実  
 態と示唆点)」 『産業経済情報』 467 pp.1-7 産業研究院
- チョヨンチョル[조영철] (1994) 「대기업 내부노동시장 형성에 관한 연구：제조업 생산  
 직을 중심으로 (大企業内部労働市場形成に関する研究：製造業生産職を中心に)」 『経  
 済学研究』 42-2pp.247-276 韓国経済学会
- チョウヒョン[조우현] (1994) 「노동자의 이직 성향과 직장만족도 (労働者の離職性向と  
 職場満足度)」 『労働経済論集』 17-1 pp.27-48 韓国労働経済学会
- チョジュン모/김안국[조준모/김안국] (2007) 『기업지배구조와 인적자원관리 (企業  
 支配構造と人的資源管理)』 韓国職業能力開発院
- チェガンシク/이규용[최강식/이규용] (1998) 『우리나라 기업의 고용조정 실태：  
 1997년 실태 조사를 중심으로 (わが国企業の雇用調整実態：1997年実態調査を中心  
 に)』 韓国労働研究院
- チェガンシク/チョンジン우/チョン진화[최강식/최진우/정진화] (2005) 「자영업 부  
 문의 소득분포 및 소득결정 요인 (自営業部門の所得分布および所得決定要因)」  
 『労働経済論集』 28-1 pp.135-156 韓国労働経済学会
- 첼름ンギョン/이미ョン진[최문경/이명진] (2005) 「자영업, 선택인가? 한국과 미국  
 (自営業, 選択なのか? 韓国とアメリカ)」 『韓国社会学』 39-1 pp.21-51 韓国社会学会
- 첼세ప్ప이올[최셋별] (2001) 「한국 상류계층 학연 연구를 위한 제언：상류 계층 학  
 력에 있어서의 명문학교의 중요성과 변화 그리고 여성의 학연 (韓国上流階層学縁  
 研究のための提言：上流階層学歴における名門学校の重要性和変化そして女性の学縁)」  
 『社会科学研究論集』 7 pp.163-185 梨花女子大学校社会科学研究所
- 첼스그ン/チョンヒョン아/チョウジェ/김만희[최수근/정현아/조우제/김만희] (2010)  
 『오너 셰프를 위한 레스토랑 창업론 (オーナーシェフのためのレストラン創業論)』  
 教文社
- 첼지ョン테/이준우[최종태/이준우] (2005) 『한국 대기업 집단 경영가치와 인적지  
 원관리 (韓国大企業集團の経営価値と人的資源管理)』 韓国學術情報
- 첼테리ョン[최태룡] (1991) 『구중간층의 형성과 사회의식：진주시 자영업자층에 대한  
 경험적 연구 (旧中間層の形成と社会意識：晋州市自營業者層についての經驗的研究)』  
 ソウル大学校大学院社会学科博士論文
- 첼호يون[최호영] (2006) 『한국 자영업 부문의 구조 (韓国自営業部門の構造)』 韓国  
 學術情報
- 타크ヒジュン[탁희준] (1992) 『한국 대기업의 사내 직업훈련에 관한 조사·연구 (韓国

大企業の社内職業訓練に関する調査・研究』韓国開発研究院

韓国経営者総協会[한국경영자총협회] (1987) 『우리나라 기업의 승진 제도 개선에 관한 연구 (わが国の企業の昇進制度改善に関する研究)』韓国経営者総協会

韓国経営者총협회[한국경영자총협회] (1996) 『한국 기업의 승진 관리 실태와 개선 방안 (韓國企業の昇進管理実態と改善方案)』韓国経営者총협회

韓国経営者총협회[한국경영자총협회] (2011) 『2011년 승진승급 관리실태 조사 : 대졸 신입 사원에서 임원 승진까지 21.2년(2011年昇進昇給管理実態調査 : 大卒新入社員から役員昇進まで21.2年)』韓国経営者총협회

韓国能率協會[한국능률협회] (1992) 『한국 기업의 인재육성 전략 : 한일 기업 국제비교 조사(韓國企業の人材育成戰略 : 韓日企業國際比較調査)』韓国能率協會

韓国生産性本部[한국생산성본부] (1981) 『한일 양국의 종합적 생산성 비교에 관한 조사 연구 (韓日兩國의 綜合的生産性比較に関する調査研究)』韓国生産性本部

韓国生産性本部[한국생산성본부] (2002) 『기업 HRD혁신 지원 체계 구축 방안 연구 보고서 (企業HRD革新支援体系構築方案研究報告書)』韓国生産性本部

韓国日報經濟部[한국일보경제부] (1985) 『한국의 50대 재벌 (韓國の50大財閥)』韓国能率研究所出版部

韓国中小企業中央會[한국중소기업중앙회] (1999~2006) 『중소기업의 금융이용 및 실태 (中小企業の金融利用および実態)』韓国中小企業中央會

韓国職業能力開發院[한국직업능력개발원] (2006) 『인적자본 기업패널 기초분석 보고서 : 제1차(2005)년도 자료분석 (人的資本企業パネル基礎分析報告書 : 第1次(2005)年度資料分析)』韓国職業能力開發院

韓国フランチャイズ協會[한국프랜차이즈협회] (2008) 『한국프랜차이즈기업체 총람 (全國フランチャイズ企業体総覽)』韓国フランチャイズ協會

한지운[한준] (2008) 『한국사회의 제도에 대한 신뢰 (韓國社會の制度に対する信賴)』韓林大學校出版部

호제준[허재준] (1997) 『1990년대의 노동시장 변화와 노동시장 정책과제 (1990年代の労働市場の変化と労働市場政策課題)』韓国労働研究院

홍두승[홍두승] (1983) 「직업분석을 통한 계층 연구 : <한국표준직업분류>를 중심으로 (職業分析を通じた階層研究 : <韓國標準職業分類>を中心に)」 『社会科学と政策研究』 5-3 pp.69-87 ソウル大學校社会科学研究所

홍두승/크헤겐[홍두승/구해근] (1993) 『사회계층·계급론 (社會階層·階級論)』茶山出版社

홍두승/김비ョン조/조동기[홍두승/김병조/조동기] (1999) 『한국의 직업구조 (韓國의 職業構造)』 ソウル大學校出版部

홍두승[홍두승] (2005) 『한국의 중산층 (韓國の中産層)』 ソウル大學校出版部

홍석표[홍석표] (2003) 『경제위기 전후의 중산·서민층 생활실태 변화와 대책 (經濟危機前後の中産・庶民層生活実態変化と対策)』韓国保險社會研究院

ファンシジョン[황수경](2003) 『내부자(Insiders) 노동시장과 외부자(Outsiders) 노동시장의 구조 분석을 위한 탐색적 연구 (内部者(Insiders)労働市場と外部者(Outsiders)労働市場の構造分析のための探索的研究)』 韓国労働研究院

ファンシジョン[황명수] (2002) 「경영 문화에 관한 한일 양국의 비교연구 (經營文化に関する韓日兩國の比較研究)」 『韓日經商論集』 25 pp.1-26 韓日經商学会

<英語文献>

- Ansoff, H. I.(1988), *The New Corporate Strategy*, New York: Wiley(=1990, 中村元一/黒田哲彦訳 『最新・戦略経営』 産能大学出版部)
- Banerjee, Abhijit V. & Newman, Andrew F.(1993), “Occupational Choice and the Process of Development”, *Journal of Political Economy*, 101(2), pp.274-298
- Becker, Gary S.(1964), *Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis with Special Reference to Education*, Columbia University Press(=1976, 佐野陽子訳 『人的資本：教育を中心とした理論的・経験的分析(第2版)』 東洋経済新報社)
- Blanchflower, David G. & Oswald, Andrew J.(1998), “What Makes an Entrepreneur?”, *Journal of Labor Economics*, 16 (1), pp.26-60
- Blau, Peter M.(1956), *Bureaucracy in Modern Society*, New York: Random House(=1958, 阿利莫二訳 『現代社会の官僚制』 岩波書店)
- Blau, Peter M.(1964), *Inequality and Heterogeneity: A Primitive Theory of Social Structure*, New York: Free Press(=1974, 間場寿一/居安正/塩原勉訳 『交換と権力：社会過程の弁証法社会学』 新曜社)
- Boissevain, Jeremy(1974), *Friends of Friends: Networks, Manipulators and Coalitions*, Oxford: Blackwell(=1986, 池上真珠/池岡義孝訳 『友達の友達』 未来社)
- Bourdieu, P.(1986), “The Forms of Capital”, Richardson, J.G.(Ed.), *Handbook of Theory and Research for the Sociology of Education*, New York: Greenwood Press, pp.241-258(=1998, 井上義和訳 「資本の諸形態」 『教育・社会・文化：研究紀要』 第5巻 pp.113-119)
- Coleman, James S.(1988), “Social Capital in the Creation of Human Capital”, *American Journal of Sociology*, 94, pp.95-120
- Dahl, Robert A.(1991), *Modern Political Analysis*, Englewood Cliffs, N.J.:Prentice-Hall (=1999, 高島通敏訳 『現代政治分析』 岩波書店)
- Doeringer, Peter B. & Piore, Michael J.(1970), *Internal Labor Markets and Manpower Analysis*, M.E.Sharpe(=2007, 白木三秀監訳 『内部労働市場とマンパワー分析』 早稲田大学出版部)
- Etzioni, A.(1964), *Modern Organizations*, Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall(=1967, 渡瀬浩訳 『現代組織論』 至誠堂)
- Evans, David S.(1989), “Some Empirical Aspects of Entrepreneurship”, *The American*

- Economic Review*, 79(3), pp.519-535
- Fields, Gary S.(2005), “A Guide to Multisector Labor Market Models”, *Social Protection Discussion Papers*, 32547, The World Bank
- Gindling, T.H.(1991), “Labor Market Segmentation and the Determination of Wages in the Public, Private-Formal and Informal Sectors in San-Jose, Costa-Rica”, *Economic Development and Cultural Change*, 39(3), pp.585-605
- Granovetter, Mark(1973), “The Strength of Weak Ties”, *American Journal of Sociology*, 78(6), pp.1360-1380
- Granovetter, Mark(1985), “Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness”, *American Journal of Sociology*, 91(3), pp.481-510
- Granovetter, Mark(1995), *Getting a Job: A Study of Contracts and Careers*, Second Edition, University of Chicago Press(=1998, 渡辺深訳『転職：ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房)
- Hamilton, Barton H.(2000), “Does Entrepreneurship Pay? An Empirical Analysis of the Returns of Self-Employment”, *Journal of Political Economy*, 108 (3), pp.604-631
- Jovanovic, Boyan(1979), “Job Matching and the Theory of Turnover”, *Journal of Political Economy*, 87(5), pp.972-990
- Kim, Myung-hye(1993), “Transformation of Family Ideology in Upper-Middle-Class Families in Urban South Korea”, *Ethnology*, 32(1), pp.69-85
- Lett, D.P.(1998), *In Pursuit of Status: The Making of South Korea's "New" Urban Middle Class*, Harvard University Press
- Lin, Nan(2001), *Social Capital: A Theory of Social Structure and Action*, Cambridge University Press
- Lipset, S.M.(1959), *Social Mobility in Industrial Society*, Berkeley: University of California Press(=1969, 鈴木広訳『産業社会の構造』サイマル出版社)
- McClelland, David C.(1961), *The Achieving Society*, Princeton, N.J.: Van Nostrand(=1971, 林保監訳『達成動機：起業と経済発展におよぼす影響』産業能率短期大学出版部)
- Merton, R.K.(1957), *Social Theory and Social Structure*, New York: Free Press(=1961, 森東吾/森好夫/金沢実/中島竜太郎訳『社会理論と社会構造』みすず書房)
- Meyer, N. D. & Boone, Mary E.(1989), *The Information Edge*, Gage Publishing(=1991, 長谷川正治/北原康富訳『情報優位の企業戦略：インテリジェント・カンパニーへの挑戦』TBSブリタニカ)
- Mintzberg, Henry(1989), *Mintzberg on Management*, New York: Free Press(=1991, 北野利信訳『人間感覚のマネジメント』ダイヤモンド社)
- OECD(2000), *Global Entrepreneurship Monitor*, Finish Executive Report
- OECD(2007), *OECD Employment Outlook*

- OECD(2008), *OECD Factbook*
- Putnam, Robert D.(1993), *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton N.J.: Princeton University Press(= 2006, 河田潤一訳『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』NTT出版)
- Putnam, Robert D.(2000), *Bowling Alone : The Collapse and Revival of American Community*, New York: Simon & Schuster(= 2006, 柴内康史訳『孤独なボウリング：米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房)
- Rees, Hedley & Shah Anup(1986), “An Empirical Analysis of Self Employment in UK,” *Journal of Applied Econometrics*,1(1), pp.95-108
- Robson, Wiliam A.(1937), *Public Enterprise: Developments in Social Ownership and Control in Great Britain*, London: G. Allen & Unwin
- Rosenbaum, J., Settersson, R., & Maier, T.(1990), “Market and Network Theories of the Transition from High School to Work: Their Application to Industrialized Societies”,*Annual Review of Sociology*, 16, p.263
- Schein, Edgar H.(1985), *Organizational Culture and Leadership*, San Francisco: Jossey-Bass(=1989, 清水紀彦/浜田幸雄訳『組織文化とリーダーシップ』ダイヤモンド社)
- Schultz, Theodore W.(1970), “Investment in Human Capital”,*The American Economic Review*, 51(1), pp.1-17
- Schumpeter, Joseph A.(1926), *Theorie der wirtschaftlichen Entwicklung*,Leipzig: Duncker & Humblot(=1977, 塩野谷祐一他訳『経済発展の理論』岩波文庫)
- Sorensen, Aage B.(2001), “Careers and Employment Relations”,*Sourcebook of Labor Markets: Evolving Structures and Processes*, New York:Kluwer Academic/Plenum Publishers
- Suh, H., Yee, Jaeyeol & Chang, Dukjin(2013), “Type of Trust and Political Participation in Five Countries: Results of Social Quality Survey”, *Development and Society*, 42(1), pp.1-28
- Topel, Robert H.(1992), “Job Mobility and the Careers of Young Men”, *The Quarterly Journal of Economics*,107(2), pp.439-479

<論文の内容の要旨>

## 1. 研究目的

韓国では、1997年に発生した経済危機（IMF危機）を契機として、民間企業が雇用の柔軟化に本格的に取り組みはじめるとともに、ホワイトカラー雇用者を対象とする雇用調整（整理解雇、名誉退職など）を強化した。その結果、ホワイトカラー雇用者の職業移動が程度を増したが、そのなかには自営業層に移動する者も決して少なくな

かった。

韓国の自営業層を対象とする従来の社会学・経営学的な先行研究は、その大半が、計量的アプローチによるもので、個人の社会的属性と起業行動との相関関係、自営業層への移動類型と所得との相関関係、ならびに階層移動の特徴については相当の研究の進展がみられる。そのなかには、中産層の自営業層への移動を下降移動と捉える研究もあるが、仮にこれが妥当であるのならば、IMF危機以降に数を増したとされる大卒ホワイトカラーの自営業層への移動（起業）において、彼ら、なかでもアッパーミドルに相当する者がなぜ、どのように起業したのかについて、退職・起業動機や社会経済的背景を含め、実証的に考察する必要がある。また、彼らの起業行動を詳細に分析することによって、ブルーカラーからの移動と零細経営を主体とするような従来の自営業層との違いを明らかにすることもできる。現代韓国のいわゆる「自営業層」は、実態として複合的な構成をとるにもかかわらず、先行研究では何かしら共通の属性を持つ単一のカテゴリーとして捉えられる傾向が強かった。これに対し本論では、自営業層を複合的な構成を持つものとして捉えなおし、なかでもアッパーミドルの起業行動に含意された社会経済的意味に注意を喚起する。

以上の問題意識を踏まえ、本論文では、1995年から2010年までの15年間を対象として、大卒ホワイトカラーの自営化について実証的に論ずる。なかでもIMF危機を契機に彼らの起業動機がいかにかに形成され、起業の準備がどのように行われたのか、事業をいかなる方法で維持したのかを事例を通じて考察する。これらの考察を通じて、起業の過程において彼らが保有する社会的資源はどのようなものであり、それをいかに活用しているのか、その背景にどのような階層意識が介在するのかを考察することで、韓国社会でアッパーミドルの自営化が可能となる社会的要因を明らかにするとともに、社会的資源を活用することがアッパーミドルにとっていかなる相互主観的な意味を持つのか、ならびに、自身の自営化をいかに下降行動になぞらえないようにしているのかを論証する。

## 2. 分析結果

第2章では、IMF危機による不況下で流動性を高めた労働市場に関連する諸変化を統計的に把握するとともに、IMF危機以前から単一企業での勤続年数が比較的短く、離職・入職の比率が高かったという点で、韓国ではホワイトカラー労働市場の内部化がそれほど進んでいなかったことを指摘した。しかも、賃金面では中年層より上で高年層に近づくほど同一企業で働き続けるメリットが低下するということが明らかになった。すなわち、韓国では、ホワイトカラー労働市場の内部化がもともと未成熟で雇用の流動性が高く、これがIMF危機を契機としてさらに高まったのだといえる。IMF危機直後には一時的に失業率が急上昇したが、その後すぐに低下したのも流動的な労働市場の賜物であったと捉えることができる。

第3章では、失業率の抑制に貢献したいまひとつの要因である大卒ホワイトカラー

の自営業層への流入を中心に、ホワイトカラー労働市場の流動性を別の側面から考察するとともに、自営業層の特質について論じた。従来の韓国社会では商売に対する社会的評価が低く、逆に、ホワイトカラーに対する社会的評価が高かった。にもかかわらず、人々は相当に高い比率で起業願望を有しており、起業を決意するにあたっては、「職場の体験」が直接的な契機となっていた。以上の考察を踏まえ、ホワイトカラーがなぜ起業意識を持つようになったのか、そしてホワイトカラーが起業分野をいかに選択したのかを検証すべき主題として指摘した。

第4章では、韓国の財閥企業におけるホワイトカラーの人事管理や人材形成の方式について考察するとともに、雇用環境の変化が労働市場の流動性にどのように作用したのかについて検討した。韓国の大企業では、大多数の人材に対して一様の教育方式を通じた業務能力の向上を図っており、経済発展による企業の規模的拡大の中で、経営者側はジョブ・ローテーションを通じてジェネラリストを養成する方式を少数の役員候補者のみに適用し、それ以外の多数の人材に対しては、特定業務のみを担当するスペシャリストとして養成する方式をとった。韓国の大企業で、入職口や昇進のキャリアパスなど、人事管理面における開放性の度合いが低かったにもかかわらず、職業移動が比較的容易であったことのひとつの背景として、このような人材形成の方式にみられる企業の壁を越えた共通性と汎用性の高さを指摘できるかもしれない。

上記の第2章から第4章までは、起業を取り巻く韓国社会の構造的要因と諸条件についてマクロに考察したのに対し、第5章以降はホワイトカラー職出身者35名へのインタビューを通じて起業プロセスをミクロに考察した。

第5章では、起業動機形成の背景に退職の契機が深く関係しており、組織へのコミットメントの度合いが低い個人ほど自営業層への参入を目指す傾向が強いことを明らかにした。特に、他企業との接触が頻繁である営業・購買・生産・研究開発系の部門においては、長年培ってきた自らの業務ノウハウを生かすことにより、活用可能な起業アイテムを発見していた。一方で、IMF危機を契機に、組織に順応していた人々ですら「名誉退職」（早期退職者に対し企業側が退職金を20%ほど上乘せする制度で、定年間近の人々に対し、自発的に退職を促すことを目的とした）を迫られる状況が引き起こされたが、彼らの多くは社外の人々との接触を通じた起業アイテム探しに必ずしも熱心ではなかった。結果として、その多くが、飲食店など比較的安易な形での起業を余儀なくされた。

第6章・第7章では、大卒ホワイトカラーの起業と経営の実態を、「会社」経営と「店舗」経営の2つの類型に分けて考察した。まず第6章では、「会社」経営22事例の検討を通じて、「投機的経営」と「持続志向的経営」の2種類の経営スタイルを抽出した。両者のあいだには、実利の追求と経営の安定性において違いをみてとることができるが、同時にいずれの類型においても、自己の資産運用、あるいは安定的な利益確保のために事業するような実利志向と、地位確保のために事業するようなステータス志向の共存を見て取ることができた。そして、この2種類の志向性をともに実現

するために、経営者は自らが有する人脈、すなわち「関係性」を、相手によって異なる役割期待や行為規範にそった形で活用していた。

第7章では、「店舗」経営13事例の検討から、経営スタイルとして、「生計維持的経営」と「拡大志向的経営」の2類型を抽出した。「生計維持的経営」では、家族、特に妻を主な労働力として、小規模経営から開始する傾向が強かったが、経営が安定すると事業規模を拡大する傾向もみられた。一方、「拡大志向的経営」の場合、起業当初から大規模な経営を試みるだけでなく、経営が安定すると明確な見通しがないうまにさらに経営規模を拡大し、かえって経営が悪化する例もみられた。「店舗」経営においては、「会社」経営にみられたような実利の追求とステータス志向の両立、すなわち大型店舗の維持と利益の確保を長期間にわたって実現しうるような経営が容易ではなかったといえる。

### 3. まとめ

ホワイトカラー職出身者による起業行動において、利益の追求が重要な目的のひとつであったことは確かではあろうが、どんな形であれ利益が得られればよいというわけではなく、自らの所属階層やステータスにふさわしい経営方式として階層的同質性に対する考慮と選別的な人脈形成を見出すことができた。このように「選別化」を志向する人脈活用術を内面化していたからこそ、「会社」を熟練性をもって運営する能力、さらにはいけば廃業しても立ち直れる能力を、起業と経営の各局面において発揮できたのではないかと考えられる。これに対し、「店舗」経営者の場合、同業者のモイム等に参加して人脈を広げ、それを経営資源に転化する傾向が必ずしも強くは現れておらず、退職時まで形成・維持していた関係性を活用するに留まっていた。良質の人脈を形成し活用することがアッパーミドルという階層に留まるための手段であったとすれば、「会社」経営における関係性の使い分けや「店舗」経営における既存の関係性のみの活用は、韓国の中産層を民族誌的に研究した人類学者レット (Denise P. Lett) が指摘したステータス・ゲームの「戦略」のようにも捉えられる。そして、こうした戦略を用いて社会的地位が模索されたことの背景には、仲間とのステータス・ゲームに参加しつづけるためにはアッパーミドルとしての行動規範を遵守せねばならないという規則が介在していたのではないかと考えられる。このように捉えると、ホワイトカラー職出身者は、仲間とのステータス・ゲームに留まるために、退職・起業に際しても厳選された関係性を活用して自営化するしか途がなかったように見える。

以上、本論文では韓国のホワイトカラー職出身者による起業行動の特徴について、激しい競争社会において社会的に生き残るために、アッパーミドル的なステータス・ゲームの戦略として、関係性が選別、活用される様相を考察した。本論が、韓国の人々の自営化の要因を解き明かすためのひとつのたたき台になればと願う次第である。